

落水時期は出穂後 30 日を目安に！

令和6(2024)年8月5日

那須農業振興事務所

- ・ 出穂期：直近5年間で最も早くなった
- ・ 防除：斑点米カメムシ対策の徹底を！
- ・ 水管理：落水時期は出穂後 30 日を目安に実施！

○生育診断ほ出穂期調査の結果

		移植日 (月/日)	出穂期 (月/日)	【参考】成熟期 (月/日)
北部 那須町寺子丙	R6 年産	5/10	8/2	(予想)9/14?
	前年値	5/10	8/3	9/12
	平年値	5/10	8/5	9/17
南部 那須塩原市 一区町	R6 年産	5/1	7/22	(予想)9/3?
	前年値	5/1	7/23	9/5
	平年値	5/1	7/27	9/8

(注) 平年値は 2020 年～2023 年の 4 カ年から算出

出穂期→ほ場全体の 40～50%が出穂した日

成熟期→帯緑色籾率 5%に到達した日

なお、R6 年産の予想成熟期は、出穂期と結実日数の平年値から算出

- ・ 出穂期は、北部・南部ともに過去4年間と比較して最も早くなった
- ・ 予想される成熟期は、北部で 9/14、南部で 9/3 である

○今後の管理

(1) 斑点米カメムシ (図 1) 対策



図1 左からクモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アスジカスミカメ (県農業総合センター)

上記のカメムシに加え、新たなカメムシ(「イネカメムシ」)の発生が確認された。

詳しくは、那須農業振興事務所ホームページへ。

https://www.pref.tochigi.lg.jp/g56/r6/nasu_inekamemushi.html

- ・ 斑点米の発生による等級落ちを回避するため、防除を徹底する

- ・防除は、薬剤散布による地域一斉防除が基本
- ・発生が多い場合、いつもの防除回数にプラスして防除を行う（「プラスワン防除」）

(2) 水管理

- ・胴割米（図2）や白未熟米（図3）の発生を回避するため、地温低下を目的とした水管理（かけ流し、夕方かん水等）を行う
- ・間断かん水を続けるが、玄米の登熟には水が必要→入水は少し早めのタイミングで行う
- ・玄米は、長さ→幅→厚さの順に発達する（図4）。なお、厚さが決まるのは、出穂後約30日。
- ・よって、落水は「出穂後30日」を目安に行うと粒張りが良い米となる

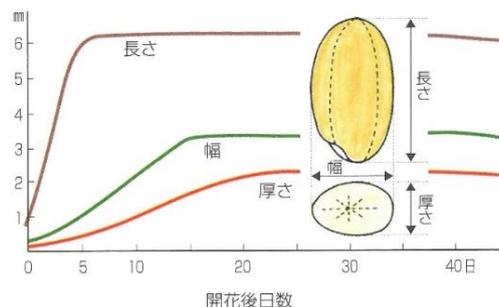


図4 玄米外形の発達（星川, 1975）



図2 胴割粒（県経営技術課）



図3 白未熟粒（乳白粒、背白粒、腹白粒）（農水省）

○被害粒発生助長条件

- ① 胴割粒（図5）出穂後10日間の最高気温の平均が30℃以上
- ② 白未熟粒（図6）出穂後20日間の最高気温の平均が32℃以上

○収穫



図5 収穫適期頃

- ・収穫適期は「帯緑色籾率（不稔粒を除いた全籾数に対する、緑色を帯びた籾数の割合）」で判定
- ・収穫開始→10%、収穫終了→3%
- ・通常、帯緑色籾率は1日当たり約2ポイントずつ低下する

【注意！】

今年も**猛暑が予想**されます。
猛暑の年は刈り取り適期の判断が難しくなることが多いので、
ほ場をよく観察しましょう



7月～8月は「農作業中の熱中症による死亡事故」が集中します。
熱中症対策の第一歩！ 日中の気温の高い時間帯の作業は控えましょう。